

Opinion

オピニオン：このページは会員の意見を紹介するページです。

「住専」処理問題について

板橋区 会員 三鍋謙作

今回の「住専」処理の公的資金6,850億円の支出はいかにもヒドすぎます。

阪神大震災の時、政府は倒壊家屋の再建に対しての援助は、私有物だからという理由で政府はこれを拒否しました。確かに「小さな政府」という意味で、私有物の損害補償までを政府が税金を使うということになると、際限がなくなってしまうというのは一つの理由です。しかし、もしそういう立場を貫徹するのであれば、住専という民間企業の不良債権が膨れ上がったから、これを公的資金つまり税金で一部負担をする、というのはスジが通りません。貸し付けに対する債権回収の見通しが甘かったということで、その経営者が責任を問われないというのは誰がどう考えてもおかしいではありませんか。金融機関以外の私企業が同様な立場になった場合、政府は同じように面倒を見るのでしょうか。「住専」の歴代のトップには大蔵官僚が天下り、しかもその退職金が多い場合は2億を超していたそうです。そんな馬鹿な。と誰もが思います。

しかも今回のことはまだその氷山の一角で、今回の1次損失に加え、やがて2次損失も明らかになると云われています。次は誰が面倒を見るのでしょうか。銀行も農協

も今回の1次損失の負担ですら、ゴネにゴネて、あわよくば公的資金の負担を膨らまそうとしているようです。仮に1次損失に関して、現在の大蔵案通りになったとしても、2次損失はまるまる公的資金が頼られることは目に見えているとも云えそうです。

「公的資金」というと、どこからお金が出てくるようですが、これは私たちの税金に他なりません。多くの国民にとっては（私もそうですが）「私が何をしたって？」というところでしょうか。銀行からも農協からも多額の借金をした覚えはな

い。仮に住宅ローンがあったとしても、生涯で借りたお金のほぼ倍額以上の金を返すように仕

組まれている、1月の遅れも許さずに確実に金融機関は回収するのです。つまり、借金があったとして、確実に一般の国民はキチンとかえしているのです。で、どこかのだれかが、ちょっとコワイお兄さんたちの企業に貸し出しすぎてしまったから、面倒見てね、って、なんでよ？というところではないでしょうか。これはクニを挙げてこわいお兄さんたちの会社を守るってことなのでしょう。意図としてそうではなくても、結果としてそうであることが既に一部の報道で明らかになっています。片一方で警察が取り締まり、片一方ではお金をばらまく、何しろ借りたお金を返さなくてよろしい、というのですから、お金を借りまくって、倒産したり、売ろうにも売れない土地を大量に抱えている不動産業ほどいい商売はありません。クニのやろうとしていることは、これらの土地のせめてもの吐き出しではなく、棚上げな訳ですから、こんなデタラメなことはありません。何年か後にこれらの棚上げされた土地が再び回り回って、高値で庶民に売りつけられるとしたら、こんなに踏んだり蹴つたりのことはないでしょう。

さて、こういう庶民のまっとうな、心の底からの怒りを表明するために、市民集会在予定されています。私自身はこの集会の実行委員でもありませんが、その趣旨には共鳴していますので、ご案内します。首都圏にお住まいの方で、この問題に怒りを感じられる方はぜひご参加ください。

この原稿はパソコン通信「平成維新フォーラム」に1月20日掲載された物を、ご本人の了解の上、転載しました。

編集部